

An underwater photograph of a coral reef. The foreground is dominated by a large, dense patch of yellowish-brown branching coral. Several small blue and white striped fish are swimming around the coral. In the background, there are more coral structures and a few larger fish, including a prominent dark fish with a yellow stripe near the top left. The water is clear and blue.

ニモちゃんワールドを 救うために

株式会社 シーテクニコ

※このパンフレットには、石西礁湖サンゴ礁基金への寄付金が含まれています。

海のゆりがぞサンゴ礁



美しいサンゴを知ろう

サンゴはクラゲやイソギンチャクと同じ刺胞動物の仲間です。

ここでお話をしていくサンゴ類は、植物プランクトンである褐虫藻と共生しています。褐虫藻が光合成をして作り出した栄養分をサンゴが使い、生活をしています。その褐虫藻は色を持っていて、褐虫藻が元気であるほど、色鮮やかなサンゴを見ることができます。



私たちのフィールド『石西礁湖』せきせいしょうこ

石西礁湖は石垣島から西表島までの東西20km南北15kmのサンゴ礁海域で、西表石垣国立公園にも含まれています。石垣島の『石』、西表島の『西』をとって、『石西礁湖』と呼ばれています。多様なサンゴ礁を中心とした生態系は世界的に見ても貴重だと言われています。

海からのSOS



サンゴの危機

人間の生活空間が豊かになる反面、大自然のニモちゃんワールドが悲鳴をあげています。

石西礁湖では1970年代以降、サンゴ礁が弱り始め現在では危機状況に陥っています。



イソギンチャクが白化してニモは元気！

陸地からの脅威

沖縄の土壌である赤土は粒子が細かく、大雨などで海へ流れ出るとサンゴ礁の上に降り積もり、光合成の邪魔をしてしまいます。

近年大量発生を繰り返しているサンゴを食べる『オニヒトデ』の大量発生は栄養分を多量に含んだ水が海に流れ込むことが原因だと言われています。

二酸化炭素などの温室効果ガスの影響で海水温が上がり、褐虫藻がなくなってしまう白化現象も問題となっています。



ヘドロに負けず生きるサンゴ。新川川河口にて

赤土流出を防ぐため！！

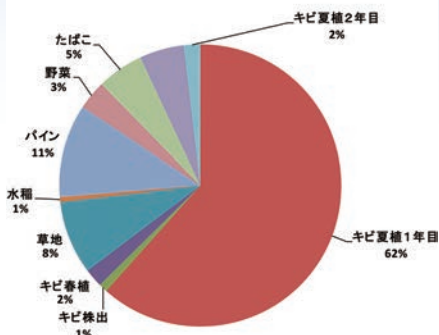
干川 明（石西礁湖サンゴ礁基金）

赤土流出の根源は農地

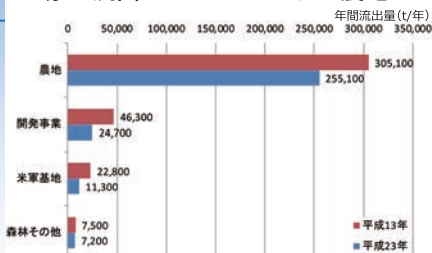
現在、赤土の流出の80%は農地からの流出が原因だと考えられています。

畑を耕す時期と台風やスコールなどの大雨の時期が重なると、畑の赤土が海へ流れ出ていきます。

農作物別の赤土流出量



赤土流出の80パーセントが農地！！



平成13年度及び平成23年度の赤土等年間流出量(推計)の内訳

出典：沖縄県赤土等流出防止対策基本計画 平成25年9月
沖縄県より

現在のターゲットはサトウキビ

石垣島の赤土の流出量の一番多いのはサトウキビ畑からです。

これが栽培方法を変えることにより大幅に流出量を減らせると考えられます。その為の支援を始めています。



サトウキビ畑。植える時期によって赤土の流出量が変わる。

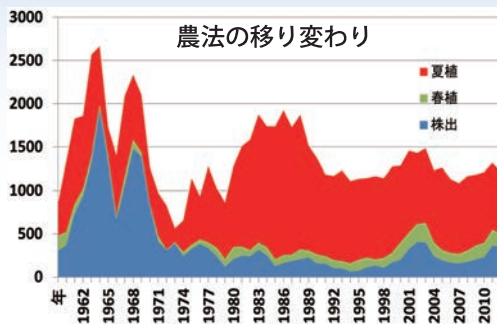
夏植えから株出しへ

畑は耕さない？！

畑は耕して…そこから考え方を変えてみましょう！！

収穫をした後、耕さずにそのまま次の収穫のための栽培を始める。これが株出し栽培です。

	夏 植 え	株 出 し
収 穫	2年に1回	1年に1回
収 穫 量	8 t / 2年	5 t / 1年
台 風 被 害	少 ない	多 い
赤土流出量	非常に多い	少 ない



昔の農法を今に？

1960年代までは主流だった株出し栽培ですが、一度は農業の規制により衰退しました。しかし近年新たな方法により、再度株出し栽培が可能になりました。

現在さまざまな問題を解決しながら、株出し栽培を推進しています。



サトウキビ畑からの赤土流出

石西礁湖サンゴ礁基金

サンゴが苦しんでいる赤土についてみんなで考えよう。

サンゴ応援団



地域の方への環境教育 石垣島祭りにて

サンゴ礁基金とは

石西礁湖サンゴ礁基金は、石西礁湖とその周辺のサンゴ礁再生のために設置された「石西礁湖自然再生協議会」の基金です。

農家への支援や、オニヒトデの対策、環境教育等の事業を行っています。



株出し栽培採用農家への支援を行っています



堆肥の支援活動

発生源の対策を！！

サンゴ礁基金では、発生源を断たなければサンゴは守れない!! と考えています。

海を守るのに農家支援?と思われるかもしれませんが、根源を断つためにサンゴ礁基金では株出し栽培をしている農家を応援しています。

ゆうちょ銀行

記号番号 01710-8-142774

口座名称 特定非営利活動法人 石西礁湖サンゴ礁基金

カナ トクヒ)セキセイショコサンゴショウキキン

沖縄銀行

支店名 八重山支店 預金種目 普通預金

口座番号 1813681

口座名称 (特非)石西礁湖サンゴ礁基金

HP URL <http://www.strata.jp/sangokikin/>

100年後のために今私たちができること



次の世代への贈り物

沖縄に来ればいつでもきれいなサンゴ礁を見れると思っていました。それがどんどんサンゴが元気をなくし、今ではサンゴの数が目に見えるほど減っています。

そのサンゴを守り、受け継ぐために…今の私たちに何ができるのでしょうか？

100年後200年後にも世界に誇れる海を残す努力をしていきたいものです。

小さな心がけを…

オニヒトデの大量発生は生活排水を含む、多量な栄養分の流出が主な原因だと言われています。白化現象の根源、温室効果ガスの発生は節電、公共交通機関の利用により削減が可能です。

一人の力は小さくても、たくさん集まれば大きな力になります。今自分にできる範囲から始めましょう。

世界に誇れる石西礁湖を残すためには皆様の力が必要です。



サンゴは魚の住家

世界周航達成船長、前田博が今考えること

世界を周ってきた船長 前田博

30年を超えて石西礁湖を生業としている。

40年間、セーリングとダイビングをこよなく愛する海大好き人間である。



1年10ヶ月、世界周航した yaima 号



四男と世界への挑戦

世界周航挑戦への原動力

25年以上石西礁湖で修学旅行の受け入れをする中で「大都会の生徒たちが日本のヘキチにくる価値とは？」「生徒たちを導く先生、学校の想いとは？」という疑問の答えを見つけない…そして、海を極めたい！もっと知りたい!! という冒険心から世界へと旅立った。

世界での発見

アジアの海が、世界で一番ゴミが漂流していた。マダガスカルではキツネザルと共に生きるたくましい子どもたちを見た。観光産業として発展する模範としてニューカレドニアを観た。大自然と人間の共存共栄の見本である。



実在したニモワールド。彼女がボスです。



インド洋のイギリス領の無人島にて

世界周航後、今考えること

総航海距離 7 万 km、赤道超え 5 回、27 か国、62 寄港地 1 年 10 か月という波乱に満ちた航海達成。

そして今、私たちが動かなければこの大自然がなくなりつつある現状をどうにか食止めなければならない。